

日交研シリーズ A-628

平成 26 年度自主研究プロジェクト

旅行時間信頼性の経済評価方法に関する研究

刊行：2015 年 6 月

旅行時間信頼性の経済評価方法の理論的検討

Theoretical Investigation into Economic Valuation of Travel Time Reliability

主査：福田 大輔（東京工業大学大学院准教授）

Daisuke FUKUDA

要 旨

道路整備や料金施策による交通流の円滑化は、平均的な旅行時間によって測られる速達性の向上のみならず、定時性の向上すなわち旅行時間信頼性の向上にも大きく貢献する。その経済便益を適切に計測し、事業評価に導入可能かどうかを検討する必要性が、近年徐々に高まっている。旅行時間信頼性の経済評価に関しては、近年特に、欧州において研究や実務における知見の蓄積が進んでいる。しかし我が国に目を向けると、交通工学の分野を中心として主としてパフォーマンス評価の観点からの旅行時間信頼性に関する研究が近年増えつつある一方、交通経済学的な観点からの理論・実証研究の蓄積は不十分である。我が国では、ETC やプローブカー等のデータに加えて、高速道路・一般道路における ETC2.0 サービスの本格活用開始や民間ベースの携帯電話位置情報サービスの広範化など、旅行時間のデータベースは近年さらに充実し、ビッグデータ化が着実に進んでいる。すなわち、旅行時間信頼性の評価を十分な信頼度で行うためのデータに関する外的条件は十二分に整っており、研究のさらなる活性化と知見の蓄積が期待される状況に至っている。

以上のような問題意識のもと、本研究では、旅行時間信頼性の経済評価を行うための方法論について、理論的・実証的観点から総合的に検討することを目的とする。本年度は特に、以下の細目について集中的に取り組んだ。

- (1) 旅行時間変動の誤認に起因するコストの理論的な導出とその試算
- (2) ボトルネック渋滞を考慮した旅行時間信頼性価値の導出とその特性分析
- (3) 旅行時間変動の規定要因に関する統計分析

キーワード：旅行時間信頼性，経済評価

Keywords：Travel Time Reliability, Economic Evaluation